



11月1日は「灯台記念日」

江戸時代の初め頃、日本の灯台は台の上に建てた小屋の中で木を燃やし明りを灯していました。その後、油を燃やして明かりを灯す灯台が造られるようになり、現在のようなレンズや機械を使った西洋式の灯台が造られたのは明治時代のことでした。

日本で初めての西洋式灯台は明治元年11月1日に横須賀市の観音崎で着工されました。昭和24年海上保安庁ではこれを記念し毎年11月1日を「灯台記念日」として決めました。

今年で137年目となるこの日は、全国各地で灯台業務に功労のあった個人や団体に対して感謝状等が贈られます。稚内海上保安部においても、管内で功労のあった方々と先日行われた灯台フォトコンテスト入賞者の表彰を行うこととしています。

現在の観音崎灯台
(横須賀市)



曳航救助・巡視船れぶん

10月21日、礼文島沖で機関故障のため仲間の船に曳航されていた外国貨物船が、強風のため航行困難となり稚内海上保安部に救助を要請しました。通報を受けた稚内海上保安部では巡視船れぶんを緊急出動させこれを曳航救助しました。宗谷地方はこれから寒さも風も厳しい季節となります。巡視船乗組員は今回の救助に当たり、より迅速・的確な救助ができるよう作業の再確認をしていました。



高校生インターンシップ

稚内海上保安部では10月5～7日の3日間、稚内商工高等学校2学年4名に対しインターンシップを行いました。生徒たちは巡視船での業務や灯台の保守点検、巡視艇の操縦などを体験しました。

10月21日には枝幸高校1学年の生徒8名が「巡視船しらかみ」を訪れ、乗組員案内のもと巡視船内を見学しました。



巡視船しらかみ
救難艇体験乗船(5日)

巡視船しらかみ
機関科業務体験(5日)



「宗谷岬灯台」灯台施設の
保守点検作業(6日)

巡視艇えぞぎく
操船体験(7日)

